

指導案

「公平」について考えてみよう！

授業の目標

- ・ファストフード店を例に、誰もが快適で「公平」に利用するためにどんな工夫ができるかを考える。
- ・社会に存在する不公平に対して、自分たちが主体的にそれを補う工夫を考えていくことが、「公平」な社会につながることを理解する。

【授業後にめざす姿】

- ・身の回りの「公平」でない状況に気づくことができる。
- ・不公平を補うためのアイデアを出すことができる。

授業展開（50分）

時間	学習活動と内容	指導上の留意点
15分  約10分	1 パラリンピック・パラスポーツについて知っていることを問いかけるなどし、これから見る映像に対して興味を喚起する。 ○映像を再生し、以下の問いで 一時停止 をし、どのように考えるか問う。 問い 背泳ぎに、両腕が短い選手が参加する場合、どんな方法でスタートしたらよいだろう？ ○映像を再開し、パラスポーツが「誰もが『公平』に競い合える工夫」がされていることをおさえる。また、身近な事例としてファストフード店を利用する場面について考えていくことを伝える。	・映像では、パラ水泳アスリートのナビゲーターさきさんの進行で進んでいく。 ・授業の最初に、「本授業は唯一解を求めるものではない。自分の考えを述べ、みんなで考えていくことが大切である」ことを伝える。 ・映像では、パラスポーツを事例に「公平」について解説した後、わたしたちの身の回りに目を移し、ファストフード店に場面転換するストーリーになっている。
10分	2 考えよう 次の3つの場面、どんな困り事があるだろう？ ○ヒントを参考に、どんな困り事が考えられるか、グループで話し合わせるなどして、考えさせる。 ○発表させ、考えを共有する。	・場面は、「注文・支払い」「受け取り」「イートインスペース」の3つ。まずは、どんな困り事があるか、想像して考えさせる。 ・ヒントとして、利用者の心の声（考え）を準備。さまざまな利用者の立場から考えさせ、さらに書き足させる。準備しているヒントに限らず、たくさん書き出させるとよい。
3分  約2分	3 「映像のクラスでは、どのように考えたのだろう？」と投げかけ、映像を再生する。	・映像では、「テクノロジー」による解決や、前半に学習したパラスポーツの「用具・ルール」の工夫、「周りの人との協力」が考えられることが伝えられる。
12分	4 考えよう 誰もが快適で「公平」に利用するためには、どんな工夫ができるだろう？ ○ヒントを参考に、どんな工夫で解決できるか、グループで話し合わせるなどして考えさせる。 ○発表させ、考えを共有する。	・ 3 の映像で伝えられた内容をヒントに、自分たちなりに工夫を考えさせる。 ・3つの場面すべてについて考えてもよいし、いくつかの場面を選んで考えさせてもよい。 ・「すべての人にとって快適で、『公平』に利用する工夫を考えるのは難しい」ということに気づかせる一方、考えることの大切さを伝える。
10分  約5分	5 「映像のクラスでは、どんな話し合いになったのだろう？」と投げかけ、映像を再生する。 ○映像で伝える「みんなが『公平』だと感じる社会にする」ために大切なことを改めておさえる。 ○本時のふりかえりを記入させ、何人かに発表させ、共有する。	・映像では、以下3点を大切なこととして伝えている。 ①それぞれに「違い」があることを理解する ②話を聞いたり、情報を集めたりして、「違い」に共感する ③「違い」に応じた工夫をみんなで考える

ワークのポイント

考えよう

次の3つの場面、どんな困り事があるだろう？

- ・生徒に身近なファストフード店を利用する場面について、まずは、どんな問題があるのか想像させます。

考えよう

誰もが快適で「公平」に利用するためには、どんな工夫ができるだろう？

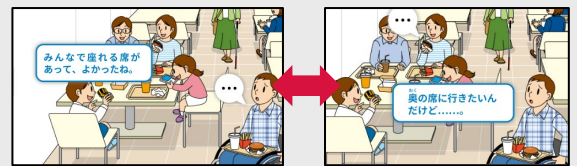
- ・次に、誰もが快適で「公平」に利用するために、どんな工夫ができるか考えさせます。

考えよう画面では、自分の端末から
ヒントをクリック！

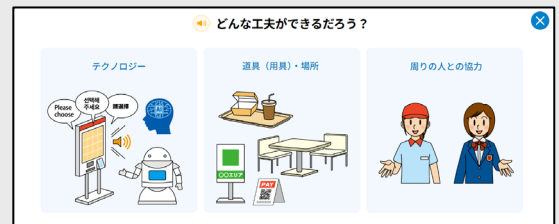


3つの場面それぞれに、ある利用者にとっては使いやすくて、ある利用者には不便であったり困り事が解決していない（相反する）事例をヒントとして準備。

例：イートインスペース（場面）

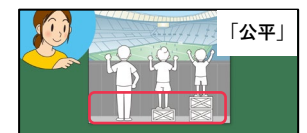
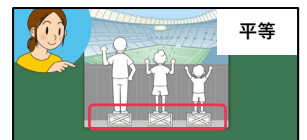


技術・モノ・人の3つの視点で、問題（困り事）解決に向けたヒントを準備。



【プログラムで伝える「公平」】

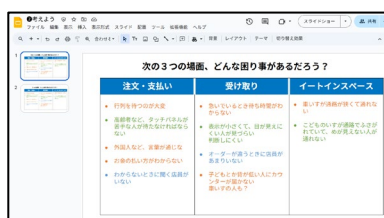
- ・映像では、生徒キャラクターの「平等と『公平』って、何が違うの？」という発言から、「公平」についてわかりやすく解説をしています。
- ・誰もが同じスタートラインに立てるようにすること、これが「公平」だと考えています。
- ・「公平」な社会をつくるためには、障害の有無やさまざまな事情によって、これがないと目的を果たすことが難しかったり、できない人がいたりするとしたら、そのために**必要なサポートを準備するのは当たり前のことだ**と考えることが大切です。



◆ ICTの活用アイデア

グループで考える・クラスの考えを知る（協働的な学び）

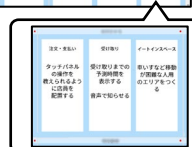
グループでの話し合いなどでは、ICTを活用することで、考えを可視化し、効果的に深めることができます。



↑ グループごとに、考えを打ち込んで
いる例。クラスの考えを見ながら、
さらに考えを広げることができます。
(Googleスライドの例)



個人の考えを→
クラスで共有している例。
(ロイロノートの例)



自分のペースで考える

(個別最適な学び)

考えようのページには、**ヒント**を準備しています。ぜひ、各自の端末から開かせ、自分で考える参考にさせてください。

その問いを考えるときに、URLを送付したり、開かせたりすると、活動に集中させることができます。



また、イヤホンを準備すると、映像視聴も含め、自分のペースで、自立的に学習を進めることができます。

ワークシート回答例

「公平」について考えてみよう！

年

組

番 名前

① 映像 ▶ 初めの映像を見よう

だれ

誰もが快適に利用できるファストフード店を「公平」の視点から考えよう。



② 考えよう 次の3つの場面、どんな困り事があるだろう？

まずは想像して書き出し、その後、ヒントを見て書き足そう！

考える
ヒント問題
(困り事)

- ・ 行列を待つのが大変！
- ・ タッチパネルが苦手な人は、待たなければならない。
- ・ 日本語がわからない。



- ・ 急いでいるとき待ち時間がわからない。
- ・ 表示が小さくて、目が見えにくい人には見づらい。
- ・ カウンターが高くて（子どもには届かなくて）、こぼしそう。



- ・ 通路が通りづらくぶつかりそう。
（子どものいすが通路に出ていて、車いすを使う人、視覚に障害がある人がぶつかってしまいそう。）

➡ ③ 映像 ▶ 続きの映像を見よう

④ 考えよう 誰もが快適で「公平」に利用するためには、どんな工夫ができるだろう？

いくつ考えられる？たくさん書き出そう！

考える
ヒント

解決

例

- ・ 支払い方法は多言語で説明する。
- ・ 店員がタッチパネルの使い方を教える。
- ・ 有人レジを増やす。

など

例

- ・ 待ち時間に色をつけたり、準備ができた大きく表示したりする。
- ・ 音声でも伝える。
- ・ さまざまな人が使えるよう、低いカウンターも設置する。

など

例

- ・ 点字ブロックを設置する。
- ・ 固定座席と移動できる座席をつくる。
- ・ 「大人数はおくを使いましょう」など、ルールを決める。

など

➡ ⑤ 映像 ▶ まとめの映像を見よう

ふりかえり 授業をふりかえって、気づいたこと、考えたことを書こう。

- ・ 平等と「公平」のちがいがわかった。
- ・ 箱による説明は聞いたことがあったけど、具体的な場面をイメージして考えることができた。
- ・ 「公平」は、一人一人のちがいに合わせたルールや工夫、解決策を考えることによって実現できることに気づいた。

自分で学習する
サイトはこちら